



①



②



③



④

- ①、② 伝統芸能で舞や笛を吹く様子
 ③ H19の村ふるさと祭でバンドとして出演した様子(写真左)
 ④ 地元岩屋地区で集まった際に、盛上げ役として『オタ芸』を披露する様子

広報 『コロナが落ち着いたらどんなことをしたいですか?』

三國 「やはり、自分も所属している商工会青年部で企画した花火イベントはやりたいですね! コロナ禍ということと、村民のみなさんも【楽しむ】という機会を待っていると思うので、自分も早く実施したいとウズウズしています!」と話してくれました。

今年度に入り、役場庁舎で定期的に行われている、村の若者を集めて新しいイベントの企画をするワークショップにも積極的に参加してくださっています。村を盛上げたいという思いが人一倍強いと感じます。

広報 『以前は、プロのミュージシャンを目指して活動していたんですよね?』

三國 「そうなんです! 東京からは夢破れて帰ってきましたが音楽の事は頭から離れませんでしたし、やっぱり今でも音楽が大好きで、いつか『東通村のイメージソング』を作ってみたいと思っています。歌には人を元気にする力があるので、ぜひ歌で村を盛上げたいです。いつか村の大きな祭でBGMとして流していたような曲を音楽好きの村民の方と一緒に作ってみたいです!」

そう笑顔で語る三國さん。普段からとにかく楽しいことを考えていることが伺えます。

色々な事に挑戦していて、岩屋地区の青年会では、伝統芸能のお囃子を師匠から教わり、笛をマスターしたそうです。また、地元に見合ったお祭りをと考え、港に置かれていた使わなくなった船を再利用し、船山車を仲間と協力して作り上げ、オリジナル音頭までも作成するという行動派です(詳しくはR3. 10月号のP24をご覧ください)。

広報 『そんな行動派な三國さんの夢を教えてください!』

三國 「音楽が好きな人たちと音楽の話を自由にできるコミュニティを作りたいです。色々な世代の人が気兼ねなく参加でき、自分の夢や目標を語り合えるような空間作りをすること。そして、ミュージシャンを目指していたころは、日本武道館でライブをするのが夢でしたが、その舞台を武道館から旧岩屋児童館に変更して発表会を開催し、その時は自主制作CDも販売したいです。これが今の私の夢です! 要するに、夢破れて帰ってきましたが、まだ諦めていません。ミュージシャンになる事を! (笑)」

広報 三國さん、夢を実現するために頑張ってください!」

三國 「サンキュー! ロッケンロール!」